

## 新たな交通システム導入に関する提言（骨子案）

新潟市全体として快適に移動できる交通環境の実現を目指し、都心を中心とした地域における新たな交通システムの将来的な導入方向性を明確にする。

◆検討対象ルート : **基幹公共交通軸と万代島へのアクセス**

◆検討対象システム : **BRT, LRT, 小型モノレール**

## 1) ルートについて

○区間 A（白山駅～古町～新潟駅～鳥屋野潟南部）を優先整備区間とすべき

○特に**都心軸（市役所～古町～新潟駅）**を最優先とすべき

## 2) システムについて

○導入効果や事業規模、事業環境の視点から **BRT, LRT が望ましい**

※ **小型モノレール**については、万代島へのアクセスを含めた広域的な拠点を結ぶルートに適する可能性がある

## 3) 区間 A における導入シナリオについて

① **当面 BRT の早期導入を目指す**

〔理由〕 都心軸における基幹公共交通軸の明確化や自動車からの転換促進、公共交通への乗り換えの定着など、一定の効果が早期に期待できる。

② 今後の環境の変化を踏まえ、**次のステップ（LRT への移行等）について判断する**

〔条件〕 現時点では、バス路線の再編・集約、乗り換えの定着、架線レス LRV の技術的確立、軌道へのバスの乗り入れ、電気バスの普及状況などが想定される。

りゅーとリンクやバスレーンの拡充など既存公共交通の改善を図りながら、まずは **BRT の早期導入** を目指し、その後、公共交通の利用促進による需要の拡大、技術革新などの社会環境の変化 を十分考慮しながら、再度、次のステップ（LRT への移行） について判断していく必要がある。そのために、引き続き LRT への移行の可能性について検討を進めていく。

判断時期としては、新潟駅高架下交通広場の供用の目処がつく頃とする。

#### 4) その他付帯意見

- ① ユニバーサルデザインの視点で高齢者をはじめとするすべての利用者にとって安全で安心な利用環境の整備を目指す必要がある
- ② 誰もが利用したくなるように、魅力的なシステムを目指す必要がある
- ③ 郊外からの利用者の利便性向上を含めた全市的な公共交通ネットワークの観点からバス路線再編や乗換施設、運行計画（頻度、運賃制度など）について、既存交通事業者との具体的な検討・協議しながら進めていく必要がある
- ④ 事業費や事業採算性について、詳細に検討する必要がある
- ⑤ 新たな交通システムの継続的・安定的な運行が可能となる仕組みづくりに向けて、市の財政状況を踏まえながら事業方式や運営方式における市の関与のあり方を明確にしていく必要がある
- ⑥ まちなかにおける自動車交通のあり方を明確に示し、新たな交通システム導入に伴う車線減少による自動車交通への影響を検証していく必要がある
- ⑦ 現状の公共交通の課題を整理し、既存公共交通の強化について着実に取り組んでいくべきである
- ⑧ 市民が新潟市のまちづくりや公共交通に関するビジョンを共有できるように、広く情報提供を行うとともに、広報・広聴活動、意向把握などに努めていく必要がある